

JR西日本のCSR ～「企業理念」の実現に向けて、「考動」します。

JR西日本の経営の基本は、福知山線列車事故を機に全社員でつくり上げた「企業理念」と「安全憲章」にあります。「企業理念」「安全憲章」のもと、全社員が心をひとつにし、安全を最優先する企業風土を構築するための努力を積み重ね、お客様や株主様をはじめとする関係者の方々のご期待に応え、将来にわたる持続的発展を図ってまいります。

JR西日本 企業理念

1. 私たちは、お客様のかけがえない尊い命をお預かりしている責任を自覚し、安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける鉄道を築き上げます。
2. 私たちは、鉄道事業を核に、お客様の暮らしをサポートし、将来にわたり持続的な発展を図ることにより、お客様、株主、社員とその家族の期待に応えます。
3. 私たちは、お客様との出会いを大切に、お客様の視点で考え、お客様に満足いただける快適なサービスを提供します。
4. 私たちは、グループ会社とともに、日々の研鑽により技術・技能を高め、常に品質の向上を図ります。
5. 私たちは、相互に理解を深めるとともに、一人ひとりを尊重し、働きがいと誇りの持てる企業づくりを進めます。
6. 私たちは、法令の精神に則り、誠実かつ公正に行動するとともに、企業倫理の向上に努めることにより、地域、社会から信頼される企業となることを目指します。

安全憲章

私たちは、2005年4月25日に発生させた列車事故を決して忘れず、お客様のかけがえない尊い命をお預かりしている責任を自覚し、安全の確保こそ最大の使命であるとの決意のもと、安全憲章を定めます。

1. 安全の確保は、規程の理解と遵守、執務の厳正および技術・技能の向上にはじまり、不断の努力によって築きあげられる。
2. 安全の確保に最も大切な行動は、基本動作の実行、確認の励行および連絡の徹底である。
3. 安全の確保のためには、組織や職責をこえて一致協力しなければならない。
4. 判断に迷ったときは、最も安全と認められる行動をとらなければならない。
5. 事故が発生した場合には、併発事故の阻止とお客様の救護がすべてに優先する。

「企業理念」の制定

福知山線列車事故を機に、安全を最優先する企業風土を構築するため、会社発足20年目を迎えるなか、当社の目指すべき方向性、価値観について議論を重ね、会社発足直後に制定した「経営理念」を見直し、「企業理念」を制定しました。

また、「安全憲章」は、「企業理念」第一項に掲げた安全に関する具体的な行動指針であり、一人ひとりが安全の担い手であることを自覚し、日常の場において、安全を最優先するという価値観に基づく行動が自然に出るよう定めたものです。



JR西日本のCSRの考え方

JR西日本のCSR(企業の社会的責任)は、「企業理念」を実現していくことです。

「企業理念」に掲げた大切な価値観を支え、育んでいくため、当社では、世の中の要請に照らして、最大の責任である「安全」に加え、「CS(お客様満足)」「地域との共生」「地球環境」「人材・ES(働きがい)」「以上、JR西日本らしさを発揮する分野)」「コンプライアンス」「危機管理」「資材調達」「ディスクロージャー」

「情報セキュリティ」「人権啓発」(以上、活動の基盤となる分野)をCSRの重点分野に定めています。

世の中と誠実に向きあい、関係者の皆様と積極的に対話を進めながら、CSRの観点に立って事業活動そのものの質を高めていくことで、世の中のご期待に応え、「安心、信頼」を築き、ともに「持続的な発展」を図っていきたく考えています。

CONTENTS

CSRの推進体制

経営課題としてのCSRを一層推進するため、平成18年6月から、社長を委員長とし、常勤取締役、常勤監査役、本社内関係部門長で構成するCSR推進委員会を設置するとともに、事務局としてCSR推進室を設置しています。



「考動」とは

「企業理念」の実現を目指し、社員、役員、そして総体である会社が一体となって、自ら考え、行動する(=考動)ことが重要と考えています。「考動」を積み重ね、その結果を報告するとの思いを込め、当社のCSRレポートを「企業考動報告書」としました。

編集方針

本報告書は、JR西日本とJR西日本グループの考えや現状を、社員一人ひとりの「考動」する姿・声を通じて世の中にお伝えしようという思いで編集しました。

冒頭で当社のCSRの考え方、中期経営計画に示した当社の経営ビジョン、目標の体系、組織等を社内外の声も活かしながらお示ししています。19ページ以降では、社員の「考動」する姿・声を通じて、平成22年度を中心に具体的な取り組みを紹介しています。

対象範囲

原則としてJR西日本単体
(取り組み事例にはグループ会社の取り組みを一部含みます。)

対象期間

平成22年4月～平成23年3月
(取り組み事例には上記期間以外のもの(直近は平成23年11月まで)を含みます。)

参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」
GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版(G3)」

経営に関する報告

- P01 JR西日本のCSR / 編集方針
- P03 JR西日本グループの概要・事業活動
- P05 座談会 事業活動を通じた西日本地域の活性化を目指して
- P09 福知山線列車事故について
- P13 コーポレート・ガバナンス
- P15 「企業理念」の実現に向けた目標の体系 / 現場起点の考動
- P17 特集 災害への対応

取り組み報告

- P19 **安全**
- P20 安全基本計画
- P21 安全性向上に向けた主な取り組み
- P25 鉄道運転事故・輸送障害対策
- P27 **CS(お客様満足)**
- P28 JR西日本の考えるCS
CS推進体制
「お客様の声」の反映
- P29 JR西日本グループ一体となったCSの向上
- P30 より利便性が高く、快適なサービスの提供
- P32 お客様への質の高い情報の提供
お客様に安心してご利用いただくための取り組み
- P33 **地域との共生**
- P34 事業活動を通じた西日本地域の活性化
- P37 社会貢献活動の推進
- P39 **地球環境**
- P40 地球環境保護活動の推進体制
環境管理の推進
環境負荷
環境目標
- P43 循環型社会の実現
公共交通の利用促進や地域と連携した環境保護
- P44 生物多様性の保全
法令順守
- P45 **人材・ES(働きがい)**
- P46 事業運営に必要な人材の安定的確保
- P47 自ら考え行動する社員の育成
- P48 自由闊達で働きがいがある環境づくり
- P51 **経営を支える基盤の取り組み**
- P51 コンプライアンス
- P54 危機管理
- P56 資材調達
- P58 ディスクロージャー
- P59 情報セキュリティ
- P60 人権啓発
- P61 11分野の平成22年度重点取り組み事項・実績及び平成23年度重点取り組み計画
- P65 第三者意見